



vol.⑤ 帝京科学大学

大学に「プレイ広場」 地域の子育てを 学生がサポート

笑顔あふれる学びの場で 子育てをお助け

豊かな自然に囲まれた緑あふれる帝京科学大学上野原キャンパス。こども学部こども学科では、幼稚園や保育所などで活躍し、子ども文化の創造に寄与できる人材を養成しています。『コミュニティワーク演習』を選択している学生は、地域に根ざした幼児保育や子育て支援について「習うより現場で学べ」をモットーに、学内外で実践活動を行っています。その中でも、キャンパス内で開いている「子育てプレイ広場」が地域の人気を集めています。

「子育てプレイ広場」は毎週水曜日の午前10時30分から正午まで地域に開放され、3歳未満の子どもたちとその保護者を受け入れています。学生は、毎回7〜8人のグループで参加。子どもたちとふれあ

保護者との交流を深めながら実践力を養うと同時に、子育てに追われる親御さんの強力なサポーターにもなっています。

「言葉だけでなく、ジェスチャーを使ったり、表情を読み取ったりすることの大切さに気づき、コミュニケーション能力が高まりました」「子育て中のお母さんには、自由になれる時間も必要だと思うので、お母さんの助けにもなりたいです」と学生たちは目を輝かせながら熱心に活動をしていました。

親子の笑顔があふれる「子育てプレイ広場」から、学生たちが明るく楽しい子育て環境を地域社会に広げています。



最初は戸惑いがちだった子どもたちも、笑顔でコミュニケーションをとろうとする学生の優しさに触れ、自然と遊びの輪に解け込み、学生と一緒におもちゃを使って遊んだり、ジェスチャーで気持ちを表現するようになりました



学生さんが一生懸命に見てくれるおかげで
私たちはリフレッシュできています



保護者の皆さん

滑り台に登ったり、いろいろなことに挑戦する我が子の成長に気付くことができるのが、この「子育てプレイ広場」です。家だと子どもから目が離せませんが、ここなら学生さんが一人一人をしっかり見てくれるので安心です。ママ友ともおしゃべりでき、ほっと一息つけて気持ちも楽になり助かっています。

実践力を身に付ける学びの場は、子育て支援につながっています

3歳未満の子どもたちとじかにふれあい、それに加えて保護者と接する機会を得ることは、学生が実践力を身に付けていくための良き学びとなっています。子どもの数が減りつつある今、「子育てプレイ広場」が子育てしやすい地域づくりに少しでも貢献できれば、と思っています。



こども学部こども学科 指導教授
木村 龍平

お母さんの気持ちも受け止めながら地域の子育てに貢献したい

お母さんと子どもが普段どのように関わっているのかを知りたい、ふれあいたい、と思いこの授業を選択しました。核家族化が進み、頼る人もいなくて不安を感じているお母さん方に、ここで会話を楽しんだり悩みを相談したりしてほしいです。少しでも心に余裕を持って子育てしてもらえるように、私も地域に貢献していきたいです。

こども学部こども学科2年
田中 翠さん



子どもたちと心を通わせる喜びを感じながら学んでいます

まだ言葉を話せない小さな子が、こちらの働き掛けに行動で応えようとする姿を見ると、気持ちが通った気がしてうれしいです。「子育てプレイ広場」では、子どもたちの自然な姿を見られるので勉強になります。子育てしやすい地域づくりには保護者との連携も大切だと思うので、その立場を理解するためここで経験を積んでいきたいです。

こども学部こども学科2年
吉岡 直哉さん

